信　条
本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。（会則第3条）

法政大學 社会学部 同窓会報

Vol.48

法政大学社会学部同窓会
発行人　高橋 敏（同窓会会長）
編集人　吉川新吾（会報委員長）
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学4号館社会学部A棟11階
TEL・FAX　042-783-2421
http://www.hoseisoc-dousoukai.jp/
郵便振替口座　02東京00140-1-63762

社会学部同窓生のみなさん、
初夏の市ケ谷キャンパスに集いましょう。

法政大学社会学部同窓会 定期総会・記念講演会等のご案内

開催日：2016年6月11日(土)
会　場：法政大学市ケ谷キャンパス

【オプション企画】

さようなら、55／58年館。お別れ見学会

集合　10：00（外濠校舎1階セブンイレブン前）～11：30

市ケ谷キャンパスでは現在、校舎建替工事が行われています。今年8月にゲート棟（仮称）、2019年1月に南棟（仮称）の2棟が完成する予定です。その後に、建築家の大江宏が設計した戦後モダニズム建築の傑作（日本建築学会賞受賞）、55／58年館の全面的な解体が行われます。

そこで、社会学部同窓会では、定期総会のオプション企画として「さようなら、法政大学55／58年館。お別れ見学会」を開催します。この校舎の記憶と記録を保存する活動を行っている「55／58きおくプロジェクト」のみなさんのガイドで、この名建築の見どころを巡ります。

55年館から58年館方向を眺める。(2011年5月撮影)

【定期総会】

誰もが参加したくなる活動デザインをつくる！

時代に向き合い常に先進的な役割を果たしてきた法政大学社会学部に愛着を持つ卒業生は多く存在します。その大多数の願いに応え、活動をダイナミックに展開していきましょう。大きな志を胸に、この1年間の活動をふりかえり、今後の活動方針、新役員を決定します。総会議案の要点は、7pに掲載しています。

受付　12：30、開会13：00～13：50
会場　55年館6階　561教室

【記念講演】

箱根駅伝、優勝めざして！
陸上競技部の現状とこれから（仮称）

今年の定期総会記念講演は、“スポーツ法政”の力強い復活を祈念して、法政大学陸上競技部駅伝監督の坪田智夫氏にお話いただきます。

14：00～15：00
会場　55年館6階　561教室

【懇親会】

様々な分野で活躍する卒業生が世代を超えて集い、先生方とも交流を楽しめるカジュアルパーティーです。ボアソナードタワーからの眺望も楽しめます。初めての方もお気軽にご参加ください。

15：15～16：45
会費　5，000円
会場　ボアソナードタワー　25階　スタッフクラブ

ゼミを芯に、学生と教員、卒業生が
つながりあう社会学部へ

徳安彰 新学部長に聞く

今年度から学部長に就任した徳安彰教授に、法政大学と社会学部のさらなる発展への抱負と同窓会との連携の在り方について聞きました。
（聞き手　高橋敏）

徳安学部長（左）と高橋敏社会学部同窓会会長

――まず、自己紹介をお願いいたします。

九州・佐賀県出身の56年（昭和31年）生まれ。今年で還暦です。久留米大学附設中学・高校から東京大学文学部、そして同大学院へと進みました。大学院修了と同時に法政大学社会学部の研究助手として着任。多摩移転2年目でした。社会学部一筋、今年で30年になります。

途中、08年から2期6年間、大学理事を務めておりました。専門は抽象理論研究ですが、昨年はサバティカル（研究休暇）で、その間に社会リスクについての論文を書きました。福島の原発事故に関連して社会のリスクをどう考えるかといったテーマです。

就職氷河期以降、学生の質が変化

――現在の大学、そして社会学部について。

移転後30年、社会の変化に合わせて学部の内容も多様化してきました。「スーパーグローバル大学」（SGU）関連でも、海外へ送りだす方はかなり充実してきました。「最近の若者は内向きだ」という指摘がありますが、法政大学に限っては留学希望者も増加し募集定員も充足しています。海外からの留学生も増えており、現在社会学部に1学年で約25人います。

――社会学部の学生像は？

30年前のバブル期の法政の学生は、勢いがあって非常に良いなと思いました。まあ、もう少し勉強してほしかった面もありましたが（笑）。

その後、バブルが崩壊し、就職氷河期と言われた時期あたりから、学生の質が少し変わってきました。93～95年にかけて私はドイツに在外研究に行ったのですが、行く前と帰国後ではおよそ様子が違っていました。前後で全く同じ時間帯・同じ教室で授業を担当したのですが、ざわざわしていた教室が、気持ち悪いくらい静かになったのです。「いつから君たちそんなに真面目になったの？」と、衝撃的なことでしたね。

良く言えば真面目です。しかし、ただ単におとなしくなったわけではなく、感性が少し変わったという気がしました。社会に対して優しくなり、現在ボランティアサークルもたくさんあります。確かにガツガツとしたパワーではなくなったかもしれませんが、しなやかな感性を持ち、観るべき点はしっかりと観ています。

多摩で次に何ができるのか

――社会学部の課題についてお話しください。

大学の都心回帰というトレンドが指摘されてはいますが、当面、多摩キャンパスで何ができるのか、ということを考えています。多摩キャンパス内の施設は充実しているので、ネットワークを活用して、いろいろな情報を取りながら、郊外でもきちんとした勉強ができる仕組みが作れないかなと考えています。また、多摩地区には高齢化などの様々な社会問題が起こっています。地域交流センターを通じて、周辺の自治体とも連携ができればいいなと思っています。学生たちに聞きますと、確かに多摩キャンパスのアクセスは大変だけれど、来たら良いキャンパスという声があります。その点を活かしていきたいと思っています。

また、カリキュラムを改革しなくてはならない時期にさしかかっています。2学科が3学科となり、現在7コース8プログラム制となっています。確かに多様性はありますが、学生たちも何を中心に勉強したらよいのか逆に見えにくくなっている部分もあります。そこで、学部学科の特色をもう少しシンプルに打ち出していけないか、議論していかなくてはなりません。

学部同窓会ときちんと連携

――最後に同窓会への期待を。

校友会担当の理事を務めた際に、各学部の同窓会をどうつなげていくかという点で議論がありました。私は「全学校友会『対』学部同窓会」ではなく、「校友会『&』同窓会」の仕組みを作っていくことが重要と思っています。

個々の学生さんが卒業後にどのように大学とつながっていくかと考えた時に、基本的にゼミだと思います。例えば、私のゼミの場合も卒業後も教員と年賀状をやり取りしている人、およびその周辺の人含めて、フェイスブックを通じて私のほうから友達申請をしてネットワークを広げ、近況などが知れるようになりました。ゼミという芯を通じて、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用しながら緩くても広げていけば、学部同窓会とつながっていく流れができると思っています。

学部としては学部同窓会と連携していくことが重要だと認識しておりますので、是非きちんと取り組ませていただきたいと思っております。

（インタビューを終えて）

学生時代にボート部に在籍されていた徳安先生は、一時中断されていた練習を再開され、現役復活。何と全日本マスターズレガッタにも出漕されています。ボートマンの徳安先生、社会学部というボートのオールも先生方と息を合わせて漕いでいかれることでしょう。

（聞き手：高橋敏、構成・写真撮影：依田素味）

学生インタビュー

卒論も「応援団」をテーマに

法政大学応援団　団長　樋口 敦大さん（社会学科4年、越部清美ゼミ）

樋口 敦大さん

「応援団の今の団長は社会学部生らしいよ」。そんな情報が入り、会報編集部ではただちに応援団OBのM氏に連絡を取り、樋口さんを紹介してもらいました。頼もしい後輩をまた一人見つけた、という感じです。

（聞き手＝中正美、依田素味）

――なぜ社会学部に

マスコミ系志望だったので、メディア系の授業が充実した法政の社会学部を受験しました。多摩は遠いですが、独立した学部棟があるので勉強するには良いところです。あえて要望させていただくとしたら、無料のスクールバスがあったらいいですね。何しろ西八王子駅からだと3か月定期で2万円程度かかるので。

――応援団に入ったきっかけは？

武道館の入学式でのデモンストレーションを見て、ストレートに「かっこいい！」と思ったからです。

――応援団に入ってみて

良かったと思うことは、応援している試合が勝った時です。昨年秋、神宮明大戦延長12、13回の接戦を制した時はとてもうれしかったです。逆に3年前の春、入学して初めて経験した六大学野球で9連勝の後、引き分け・負・負。結果、明治大に優勝を許してしまった時は、とても悔しかった。

――昨年、東大に負けた試合について

応援団としても大変責任を感じました。戦っていたのは野球部ですが、すべての非が野球部にあるのではなく、応援団も負けたと痛感しました。

――団長に選ばれた経緯は

1学年上の先輩が次の団長をはじめ、役職を決めます。希望者に対して面接があり、昨年12月1日の総会で発表という流れでした。「やる時が来たか」と、重みと責任を感じました。応援団はリーダー、チア、吹奏楽含め、現在全体で90名。ただ、リーダーは3学年合計12名と少ないため、新入生の勧誘が当面の課題です。

――団長として気をつけていることは

身体論的にいえば、姿勢です。そして、立ち振る舞いには常に気を配ります。そして、後輩にはまず自分がやってみせる。行動で示します。また、きちんと話し合い、伝えることも必要です。

――中・高は応援団だったのですか

いえ、中学はテニス部、所沢西高校ではバドミントン部でした。応援団は大学に入ってはじめてのチャレンジです。

――ゼミと卒論

「身体論」の越部ゼミに所属し、「応援団特有の動き」をテーマに卒論を書こうと考えています。

――就職について

地元埼玉の電鉄系企業が第一志望です。ずっとお世話になっている鉄道に対して、恩返しをしたいというような気持ちがあり、今度は社員としては働いて地元に貢献したい。将来的には開発や誘致関係の仕事がしてみたいと思っています。

社会学部同窓会報 学生通信員を募集します！

社会学部の最新の話題を投稿してくれる通信員を募集します。

条件が合えば、大先輩インタビューに同行していただくかも。

全国の社会学部卒業生と学生、教員をつなぐメディアづくりに参加しませんか。

shingo-y@festa.ocn.ne.jp
会報担当　吉川

教授登場

21世紀のエネルギー政策をつくる

壽福 眞美 教授（社会思想史、環境倫理）

〈21世紀のエネルギー政策をつくる〉が、2011年3月11日を体験して以来のゼミナール共通テーマである。化石燃料・核エネルギーに依存した浪費社会から脱却し、省エネルギー（削減＋効率化）・再生可能エネルギーに基づく持続可能で公正な社会へ転換しなければ、2100年に100億以上の人間のウエル・ビーイングはおそらく不可能であろう。その前に生存の自然的基盤が崩壊するであろう。ゼミ共同論文のテーマも、福島核電事故と電力生産の転換、電力・熱・交通燃料の省エネルギー、水素社会の未来と、年毎に蓄積されてきて、さて、今年はゼミ生がどういうテーマを設定するのか、楽しみである。

私の研究テーマは、〈ドイツのエネルギー政策形成過程〉である。ドイツはエネルギー転換問題で、デンマークやオーストリア等と並ぶ「世界の模範」と言えるが、その政策（政治的決定）はどのような政治的意思に支えられているのか、その意思は政治的・社会的にどのように形成されてきたのか、その要因とそれらの相互関係はどうなっているのか等々、未解明だが検討すべき課題がたくさんある。私が注目しているのは、政治的意思形成過程で社会運動と専門家（政治家、研究者、裁判官等）が果たす役割である。日本ではNPO、NGOの代表が国会や政府、裁判所の委員会や審議会、聴聞会に参加し意見表明をしたり、批判的研究者が政党や政府の代表と公開の場で議論したり、独立した研究者の委員会が政治的勧告を提起したりする機会は無きに等しい。とくに政府の審議会では批判的研究者が排除され、審議会は政府提案の正当化機関と化している。

ドイツは異なる。たとえば基本法（憲法）に基づく連邦議会専門家調査委員会は、全政党代表と各政党が推薦する研究者（したがって、必ず賛成派・反対派が同席する構成になる！）が共同研究・公開討論を行い、必ず公聴会も開催され、市民からの意見聴取も行う。その報告書は直ちに社会に公開される。市民とメディアの監視のなかで政府は政策を提案する。最終的に議会が決定するのは日本と同じだが、そこに至る過程が根本的に違っている（もちろん批判すべき点もたくさんある）。

エネルギーは生存、生活、生産にとって必須であるから、それだけに市民の参加と公開の討論に基づく政策形成も不可欠なのである。

◇　◇

同窓会の皆さん。現役学生と学部の研究・教育の発展のためにいつも尽力いただき、ありがとうございます。学生が日本と世界の直面する社会問題ともっと積極的かつ真摯に対峙し研究できるよう、体験を踏まえた厳しい批判と激励をお願いします。

同じ学び舎で過ごした仲間たちに、情報発信しませんか。
（お店や著書の紹介、各種営業案内もOK！）

社会学部同窓会報 広告のご案内

◇媒体名：法政大学社会学部同窓会報
◇発行日：6月1日、1月1日（年2回発行）
◇体裁：モノクロ　タブロイド判　全8ページ
◇発行部数：2500部
◇配布先：社会学部同窓会会員、社会学部教職員、社会学部教職員OB・OG、社会学部棟、市ケ谷図書館。多摩図書館、校友会関係者、他学部同窓会関係者
◇お申し込みは、社会学部同窓会会員、法政大学関係者に限らせていただきます。
※発行日の2か月前までにお申し込みください。
◇原稿製作・入稿については別途ご連絡させていただきます。

＜広告料＞第2面、第7面、第8面
(大)天地100mm×左右240mm　40,000円(税込み)
(小)天地100mm×左右120mm　20,000円(税込み)
(名刺広告)　一枠5,000円(税込み)
※製作は会報編集委員会にお任せください。
所属・職名、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、3月時点卒業年、出身ゼミ名、一言メッセージ

本会は日本国憲法が保障した言論・思想信条の自由を尊重し活動していますが、理事会及び会報委員会の判断により掲載をお断りする場合もあります。あらかじめご了承ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉
〒194-0298 東京都町田市相原町4342　☎・FAX：042-783-2421（社会学部同窓会 事務局）
メール：shingo-y@festa.ocn.ne.jp（会報委員会　吉川新吾）

南会津のきれいな星空を観たくなったら
のんびりブナの森を散歩したくなったら
ナチュラリストの活動拠点 自然に癒される宿
フィールドイン楓林舎
環境・自然・天文・野鳥関係書籍、図鑑等多数
代表　三野輪真明（社会学科1979年3月卒 金山ゼミOB）
〒967-0026　福島県南会津町（旧田島町）針生昼滝山857-27
TEL 0241-64-2535　URL：http://homepage3.nifty.com/fuurinsha/

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来のこの精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。

建学以来の精神受け継ぐ「大学憲章」

地球社会の課題解決への貢献が本学の使命

法政大学は、設立150周年を迎える2030年をめざす長期ビジョンづくりの中で、「大学憲章」を作成した。田中優子総長は今年の入学式の式辞で「皆さんは、憲章に沿って教育が展開される第一世代」と語りかけ、その全文を読み上げた（＝写真）。

◇　◇　◇

注目したいのは、「あまたの卒業生たちと力を合わせて」という部分。私たち卒業生も「実践知」の主体である。法政大学の一員であることを誇りに思い、より良い地球社会の実現をめざし、あらゆる困難に立ち向かっていこう。

※「自由を生き抜く実践知」…「権威や組織やまわりの空気に寄りかからず、自分の力で考え、その考えにもとづいて自分を律して生きること」、「実践知とは、単に実際に役立つ知識という意味ではなく、社会的に価値あるものに向かって、それぞれの現場で発揮する知性」（田中優子総長の入学式式辞から）

長期計画「法政2030」、行動計画づくりの年

増田　正人（常務理事・社会学部教授）

みなさん、こんにちは。田中優子総長の新体制も2年を過ぎ、2016年度は最終年度として、大学としての成果が問われる年になります。

昨年にお伝えした「法政2030」という長期計画は、この4月に最終報告が出されました。本文が113頁、資料が60頁ほどもある大部のものです。本学の現状を分析し、将来の法政大学像を提示しようとしてまとめてきたものです。この間、中間報告、論点提示、骨子案として、3回にわたり学内に提示し、意見聴衆を重ねてきました。4月28日には全学説明会をするとともに、この長期構想を実現するために、ガバナンス体制の強化（寄付行為の改正、学内常務理事の増員等）も実現しました。

本年度は、こうした長期構想に基づき、具体的なアクションプランの作成が課題になります。現在、16の課題についての作業部会が設置されており、今年の12月をめどに各作業部会で答申がまとめられます。それら全体と取りまとめたアクションプラン（短期～長期）が年度末に取りまとめられ、次期の理事会体制の下で具体化の作業に入るということになります。

それ以外の問題では、大きなものとして、市ケ谷キャンパスに富士見ゲート校舎が完成します。外濠から見ると、大きなゲート（門）のような特徴的な外観になっており、新しいシンボルになる建物です。多摩キャンパスにかかわる問題では、4月からスポーツ健康学部で大学院（修士課程）がスタートしました。また、本年3月末に、多摩の城山校地にスキー部の合宿所が完成し、重量挙げ部は川崎校地に、自転車部とスケート部は東村山に新しく合宿所が建設されました。合宿所とともに府中寮の跡地は全て今年度中に売却される予定です。

今年度も温かいご支援をよろしくお願いします。

社会学部生の青木智美さん、リオ五輪へ！

社会学部4年生の青木智美さん（水泳部）が、4月に行われた日本選手権水泳競技大会の結果、リオデジャネイロ五輪代表に内定しました。

（写真提供＝スポーツ法政新聞会）

□新刊紹介

自由という広場
法政大学に集った人々

田中 優子：著

時代が大きく揺れ動いている中、大学の立ち位置を鮮明にしようという強い意志を感じる本です。法政大学での学び、学生生活で得たものを現代にどう生かすか、一人一人に問いかけます。登場する人＝吉田修一、後藤健二、為末大、山田耕之亮、鈴木直道、上原公子、ミサコ・ロックス、井原慶子、川村湊、坂本光司、村田紀敏、竹中宣雄、林高広、安田秀一、富永由加里、石原正康、金原瑞人、大江健三郎。

（法政大学出版局、定価1500円＋税、16年3月）

□熊本地震　被災学生への支援

法政大学は、熊本地震により被災した学部生（通信教育部生、科目等履修生を除く）のうち、家計支持者が災害救助法適用地域に居住し、所有する家屋が「全壊」「大規模半壊」「半壊」となった方（借家・賃貸マンション等は対象外）について、学費を免除（返還）するなどの経済支援策を決定した。

□校友会主催　3大イベントの開催予定日

一般社団法人法政大学校友会の3大イベントの開催予定日は以下の通り。「第15回 オール法政ゴルフ大会“総長杯”」9月5日（月）、「第24回 法政大学全国卒業生の集い・京都大会」11月11日(金)～13日(日)、「2017年・オール法政新年を祝う会」1月28日（土）。詳しくは、校友会事務局へ。電話03・3264・1831。

鈴木・大保会計事務所
公認会計士 税理士　鈴木　和男（旧姓和田）
事務所〒176-0012 東京都練馬区豊玉 5-7-4
TEL.03-3993-2301　FAX.03-3392-8823
自宅〒335-0034 埼玉県戸田市笹目 3-5-10 TEL.048-421-5852
1954年3月卒　長谷川博ゼミ

法政大学社会学部同窓会 顧問
学校法人昭和第一学園 常任顧問
株式会社ふこく出版
取締役会長　森田　忠男
〒192-0903 東京都八王子市万町 34-1
TEL.042-622-6315
1956年3月卒　長谷川博ゼミ

法政大学社会学部同窓会
幹事　藤永　正順
自宅〒733-0815 広島市西区己斐上 3-3-28
TEL.082-272-5534
1957年3月卒　中島正ゼミ

TAK
ＴＡＫテナントビル業／マルカパーキング／パーラーあむ～る
代表取締役　加藤　照親
〒410-1127 静岡県裾野市平松 474 TEL.055-992-0052
E-mail：t-katoh@ksn.biglobe.ne.jp
1959年3月卒　笠原千鶴ゼミ

税理士法人 TMS 池袋本部事務所
税理士、社会保険労務士、行政書士
代表社員　後藤　次仁
〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-17-11
TEL.03-3982-8482 (代) FAX.03-3988-8062
E-mail：t-gotou@tkcnf.co.jp
1959年3月卒　笠原千鶴ゼミ

法政大学名誉教授
（元経済学部教授）
村串　仁三郎
1959年3月卒　長谷川博ゼミ二部

法政大学社会学部同窓会
土屋　幸雄
自宅〒194-0203 東京都町田市図師町 2224-4
TEL・FAX.042-793-5550
1960年3月卒　長谷川博ゼミ

東西南北

会員の短信から

※卒業年は3月時点を記載しています。

【北海道】

札幌市
64年卒　郷久保博

最近、「文藝春秋」にみる昭和史」の第2巻に収録された、元NHKアナウンサー、藤倉修一氏の名文を読み、感銘を受けました。戦災の痛手から完全に立ち直らない昭和22年頃、様々な事情で街娼となった女性たちのことを街頭録音のラジオ番組で取り上げ、彼女たちのリーダーとなっていた女性の更生のきっかけをつくったというエピソードです。この企画は当時のNHKの放送方針にそぐわず、自身の解雇も覚悟せざるをえなかったそうです。しかし、リアルな現実を直視し、多くの人に伝えたいという勇気が、一人の女性の人生を変えたのでした。藤倉氏は法政大学卒業生。このようなアナウンサーを輩出した母校をとても誇りに感じています。

（佐藤毅ゼミ）

【東京都】

新宿区
60年卒　平山孝子

本年、思いがけなく「法政大学2部社会学部卒業生9条の会」の存在を知り、喜んで参加させていただいております。有意義で、嬉しく思っています。私は3年の時には1部に移動しているのですが、法政大学には職員として就職し、切っても切れない関係になりました。（長谷川博ゼミ）

杉並区
67年卒　安井洸治

厚生労働省　社会保障審議会　年金事業管理部会の委員に就任しました。

（増島宏ゼミ）

板橋区
94年中退　関善文

民医連、医療福祉生協に務めて23年。在学中は「民主主義の思想史的研究」をテーマに学んだつもりでしたが「民主主義」とは本当に奥深いものだと痛感する毎日。労働組合で四役や専従を経験したこともあり、今も悩み考え続けています。

（吉田傑俊ゼミ）

練馬区
84年卒　植田孝良

富永建一、高田保馬、清水幾太郎の著作を読んでいます。本を読む時間を作ろうとしています。同窓会の総会は、毎回出席しています。卒業しても、大学との繋がりを大切にしたいと思っています。

（稲増龍夫ゼミ）

葛飾区
63年卒　河村勝弘

土生先生ゼミ1963年ですが、同期何人かで広告の一つも出したく…連絡乞うの効果、今回は期待していますが！

（土生長穂ゼミ）

立川市
57年卒　石川榮次郎

1期卒、今年84才。糖尿病25年目。前立腺癌放射線治療して4年目。元気で頑張っています。

（近江谷駒ゼミ）

狛江市
63年卒　鈴木暁

昨年（2015年）75歳になりました。40歳からの教員は、現在の日大商学部の非常勤講師で終止符です。長年、国際物流や港湾経済というマイナーな専門分野で教職、研究に係わってきましたが、一段落となります。TBSのサンデーモーニングに田中優子氏の登場を楽しみにしております。

（増島宏ゼミ）

【神奈川県】

横浜市
04年卒　大多和浩一

変わりありません。

（吉村真子ゼミ）

横浜市
84年卒　鈴木康功

今年（2016年）は箱根駅伝でスタートしました。法政2年ぶりの箱根路。横浜駅付近で復路を応援。総合19位と残念な結果ではありましたがオレンジに元気を貰いました。物事全てが結果だけでは無いというのが私のポリシーです。私は今年55歳になりますが私の原点は法政大学社会学部で学んだことです。特に秋田成就ゼミで「労働法」を学んだことが大きな財産だと考えております。今年も「社会保険労務士」として秋田ゼミで学んだ「労働法」の基本理念を忘れることなく労働者に寄り添い「ブラック企業撲滅」や「労働法改悪阻止」に微力ながら尽力し少しでも世の中が是正されるよう頑張る所存です。

（秋田成就ゼミ）

【山口県】

周南市
63年卒　伊藤雅史

箱根駅伝は残念でしたが、オレンジ色を見ると勇気付けられる。来年を期待します。

（土生長穂ゼミ）

お気に入りの写真から

各地域の芝居小屋に魅了されて

83年卒　田中 京子

今年、創建100周年の「内子座」。木造2階建て瓦葺き入母屋作り。回り舞台や花道、桝席などを整えている。老朽化のため解体が決まっていたが、町並保存事業に連動して復原され、昭和60年（1985年）10月、劇場として再出発。現在は芸術文化活動の拠点として活用されている。

趣味で各地の芝居小屋や地歌舞伎めぐりをしていますが、中でもお気に入りは愛媛県内子町の「内子座」（大正5年＝1916年）。もう10年も通っています。今、自分が座っているこの席で、百年前の観客がどんな芝居を観て歓声をあげていたのだろう？と思うと楽しくなります。地域の劇場は、地域の記憶が詰まっているように思います。

15年ほど前、岐阜県の加子母村を通りかかり、たまたま明治座という芝居小屋を見たのが芝居小屋の魅力にはまったきっかけです。案内のおじいさんが、とても楽しそうに、盛んだった興業や地歌舞伎の話をしてくれました。明治座の中幕は鮮やかなブルーの絵柄なのですが、よく見ると、女の子の名前がたくさん書いてある。当時の村の女の子の名前なのだそうです。「子供が美しく成長するように」という親の願いが表れているのだなと、楽しくなりました。中津川界隈には芝居小屋がいくつも現存しています。（金山行孝ゼミ）

（解説）法政大学55・58年館

知る人ぞ知る、モダニズム名建築

今年の同窓会総会ではオプション企画として「さよなら55・58年館。お別れ見学会」を行います。この校舎のことは大学のホームページに「大内兵衛総長時代の校舎建設」と題した解説が出されていますので、ご紹介します。（トップページ―法政大学について―法政大学の歴史）

◇　◇　◇

市ケ谷キャンパスの55・58年館は、法政大学の校舎として象徴的な建物です。本学が戦後初めて本格的な校舎の復興に着手したのが、1952（昭和27）年の春で、まず53年館（旧大学院棟）が建設され、その後55年館、58年館、第Ⅱ58年館（53年館と第Ⅱ58年館はボアソナード・タワー建設のために既に取り壊されています）と4棟が建設されました。53年館は地下1階、地上6階の近代的な建物で、大学院校舎として建設されました。夜になると「HOSEI UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL」のネオンが外濠によく映えたといわれています。当時、評論家の大宅壮一が「HOTEL UNIVERSITY」だと冷やかしたほど「モダン」でした。

これらの建物の設計は、当時本学工学部の教授だった大江宏先生によるものです。大江先生の建築は、かねてから自由で美しい設計、適切な構法表現で学校建築にいままでにない方法を打ち出したとして注目され、校舎建築の持つ機能や合理性を最高度に発揮。これまでのいわゆる「大学らしいアカデミック」な建築様式から脱した能率的な設計、衛生的で環境の良さを考慮した構築方法は建築界でも高く評価されていました。

この一連の建設により大江先生は58（昭和33）年度第九回芸術選奨・文部大臣賞を受賞。また、同年度建築学会賞を受賞されました。55年館1階の511教室の前のホールには、大内兵衛元総長の筆による論語の一説「学而不思則罔、思而不学則殆」が掲げられています。

「和の要素を随所に感じる建築デザイン」（撮影　吉川新吾）

すき焼き・しゃぶしゃぶ・フランス料理
創業明治5年 伝統の味と風情をご堪能下さい
吉（よし）　寅（とら）
吉崎 秀夫
埼玉県川越市元町 1-9-3（市役所通り）
TEL. 049-222-0102
1961年3月卒　逸見重雄ゼミ

一般社団法人法政大学校友会 代表議員
群馬県支部高崎支部
支部長　柳澤 昭吉
自宅〒370-0824 群馬県高崎市田町 141-1-1101
TEL. 027-321-7308
1964年3月卒　佐藤毅ゼミ

法政大学社会学部同窓会
幹事　山田 道生
自宅〒017-0803 秋田県大館市東台2-1-64
TEL. 0186-43-2980
1963年3月卒　笠原千鶴ゼミ

法政大学社会学部同窓会
濵名 達
自宅〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井 988
TEL・FAX. 042-597-0135
1965年3月卒　北川隆吉ゼミ

法政大学大学院 教授 連帯社会インスティテュート・運営委員長
NPOサポートセンター 理事長
法政大学社会学部同窓会
副会長　山岸 秀雄
大学研究室 TEL・FAX. 03-3264-4704
NPOサポートセンター 東京都中央区銀座 8-12-11
TEL. 03-3547-3206
1969年3月卒　佐藤毅ゼミ

人材形成研究所代表
結婚相談所3愛ネットクラブ
東京法政ライオンズクラブ 前会長
一般社団法人法政大学校友会 代表議員
法政大学社会学部同窓会
事務局長　水上 久忠
携帯 090-4077-1223　自宅 TEL・FAX. 03-3787-3476
2002年9月卒　法政大学大学院社会科学研究科経営学専攻
1970年3月卒　高橋精之ゼミ

シャカイ人 OB・OG

仕事はビジネスの橋渡し、趣味はスキーと陶芸に夢中

日本ビジネスマッチング
社長
三上 純昭さん
社会学科　78年3月卒

昨年11月、起業してから15年が経ちました。法政を卒業して証券会社に24年勤務し、45歳になってからのスタートでした。主たる業務は、「ビジネスマッチング」と社名に付けているように、まさにビジネスの橋渡し業で、企業間の業務提携をまとめています。周囲の方々に支えられ、何とかやってこれておりますので、出会いのあった方々には感謝、感謝の毎日です。

ここでは、最近はまっている、2つのことについてふれてみたいと思います。

まずはスキーです。今年3月19日にて60歳の還暦を迎えました。これにはいろいろな解釈がありますが、干支が一巡し、起算点となった干支に戻ること。本人に赤い頭巾やチャンチャンコなどを着せたりしますが、生まれた時に返るという意味もあるそうです。年齢的にはハードなスポーツはきついのですが、丁度、縁あって入会したロータリークラブに全日本のスキーの検定指導員がおり、ここ数年、基本を習っています。今年は級も取ろうと思い、結果はわかりませんが、年初からスキー場に通っています。まさに若い時に戻った気分です。

加えて練習を終え雪景色を見ながらのビールは格別です。

もうひとつは「陶芸」です。これも、職場時代の上司が凝っていましたので、少しはやったことはありましたが、本格的に始めたのは最近です。年に一度は六古窯見学を実施し、昨年は信楽、一昨年は越前と窯場を回りながら地元の先生とも交流しております。私個人の腕はまだまだですが、いつかは仲間とチャリティ陶芸展なども開催できればと思っております。たまに少人数の会合にお土産でぐい飲みなどを持参しプレゼントしますが、同じことを繰りかえさないようにしております。ぐい飲みだと場所も取らないのでもらった方も喜んではくれますが、回数は一度にしております。最初はこの世に一個しかないと差し上げますが、(私の腕ではきちんとした同じものが何個も創れません。)もらった方の迷惑も考えるようにしております。

最後になりましたが、仕事も趣味も楽しみながら、健康に注意して続けて行ければと思っております。皆さま引き続きよろしくお願い申し上げます。

新入会員の紹介

（受付期間　15年11月～16年4月）

岩田健（89年卒）、麻生幸俊（72年卒）、越川弘三（76年卒）、髙橋萌子（16年卒）、下辻美桜（同）、古旗彩花（同）、中尾圭太朗（同）、川添岳（同）、村松駿（同）、永田惠大（同）、稲本将吾（同）、石井明優美（同）、大津恵実（同）

随想 東南アジアから見た日本の姿 海外営業マンの独り言

医療機器メーカー勤務　**中島 謙さん**
社会学科　88年3月卒
五十嵐 仁ゼミ

東南アジアのある国の仕事の取引先の社長と会食していた時だった。突然、こんなことを言われた「両親から聞いたのだけど、戦争の時は、とにかく早く食べることが何よりも大切だったらしいです。いつ空襲が来るかもわからない。ゆっくり食事がとれるようになった、これが戦争が終わったことを実感した一番のことだった、と両親は言ってました」。この国は欧州某国の植民地化、そして第二次大戦中に日本軍の侵攻と占領を経験している。何がきっかけで、この社長がこのようなことを話したのかはよく覚えていない。それまでは普通のビジネス会食らしく、ただ仕事の話をしていただけだった。彼は誰の戦争であったか、具体的な国名はあげなかった。ただ日本人の取引先と和食を食べていたことがきっかけだったのかもしれない。

我が妻の母国のある東南アジアの国では、最近膨張を続けるアジアのとある国の動きに、一般市民までピリピリしている様子。マスコミ報道の内容はもちろん、流言飛語やどうみても作り話という類の話まで、まことしやかに噂として流れたり、「これが証拠だ」と言わんばかりにYoutubeに「証拠映像」をアップしたりと、忙しい。我が妻もこの国製の食品は基本購入しなくなった。「こんなことでために決まってるだろう。まったく。。。」と日本人の自分は冷ややかに見ているが、妻の国が歴史的にずっとこの国から侵略を受け、それを撃退してきたということが「民族の記憶」として引き継がれているということ、これが「過剰反応」の背景にあることは確実だ。やられた側は忘れないのである。

日本が「やった側の歴史」をきちんと引き継いでいるのかどうか？正直ここ数十年の歴史は平和憲法として結実して存在し続けている。しかし、その背景にある事情が忘れ去られていけば、文面は残ってもその内実は弱められてゆく。そして、最後はその存在すらも消されてしまうかもしれない。けれども、やられた側は決して忘れない。それならば。。。

在学時代に法政の諸先生方から「平和」を学んだ者として、先日我が街で初めて開催された平和パレードで歩きながら、そんなことを考えていた。。。

私論公論 東京マラソンに参加してみた！

中正美
75年卒、陸上競技部

今年2月28日に行われた東京マラソン。10年目の「東京がひとつになる日。」

温かな春を感じる朝を迎えた。今年は、ジリジリと照りつけた灼熱の太陽の下でたくさんの汗を流したこともあり、自信たっぷりの朝であった。午前9時10分、東京都庁前スタート。

走り始めて4キロ過ぎ、予想外のアクシデントが起こった。中央分離帯の突起物につまずき、転倒したのだ。その理由がまさに法政大学同窓会員として恥ずかしくない理由だから自分でも驚きである。市ケ谷駅を通過して右手にボアソナード・タワーがそびえ立っている外堀通り。思わず建物に見入ってしまったのである。その瞬間人並みは左右に分かれ、自分だけが転倒。結果、左足ふくらはぎ肉離れ。激痛が走り、一瞬止めようと思った。残り38キロ。もはや自己記録どころではなくなった現実にまともに向き合って出した答えが「行けるところまで行こう」であった。それからというもの9カ所ある関門通過時刻との戦い。63歳である自分が、なぜここまでという念を抱きながら限界に挑戦しつつ完走。金色に輝くメダルと記念バスタオル手にすることが出来た。

翌日から3週間、松葉杖の生活となった。お読みいただき、ご理解をいただけるなら「よく頑張った」とお褒めの言葉をいただけるとありがたい。

学校法人中央学園
中央福祉医療専門学校
理事長 校長　宮杉　早苗江
本部〒323-0022 栃木県小山市駅東通り2-24-28
TEL.0285-24-1571　FAX.0285-24-2522
E-mail：msanae@peach.ocn.ne.jp
http://www.chuo-fukushiryou.ac.jp
1970年3月卒　田沼肇ゼミ

東京実業有限会社
代表取締役　千葉　正顕
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-11-10 コハラビル2F
TEL・FAX.03-5577-3151 携帯090-4415-2515
1961年3月卒　山本巌ゼミ

柏市地域づくり推進委員会 委員
法政大学社会学部同窓会
理事　中村　一廣
自宅〒277-0086 千葉県柏市永楽台3-8-3
1961年3月卒　増島宏ゼミ

法政大学社会学部同窓会
常任顧問　中山　重臣
自宅〒242-0008 神奈川県大和市中央林間4-29-14
TEL・FAX.046-275-3022
1961年3月卒　土生長穂ゼミ

法政大学評議員
株式会社新潟放送
代表取締役 社長　竹石　松次
〒950-0972 新潟県新潟市中央区新和3-12-6
1966年3月卒　佐藤毅ゼミ

法政大学社会学部同窓会
理事　塩田　利明
1967年3月卒　土生長穂ゼミ

学部コミュニティの拡充へ、結束を確認

教授会執行部と懇談会

社会学部同窓会は4月18日、今年度から2年間を任期とする教授会の新執行部と定例の懇談会を行った。まず徳安彰学部長が「（今年は）定員の742人を大きく超える918人が入学。教室の調整が必要になったが、バスの混雑は心配していたほどひどくはないと、新入生を迎えたキャンパスの近況を報告。斎藤友里子教授（教授会主任・教務担当）、吉村真子教授（同・入試関連担当）、樋口明彦教授（同副主任・学生生活担当）も、新入生の印象を語った。なお、徳安学部長は、「中長期戦略『HOSEI2030』に合わせて多摩キャンパス及び社会学部の方向性をまとめる時期にきているが、都心回帰について社会学部では『この地で新しい展開に挑みたい』から『都心移転を要望』まで、様々な意見がある」とし、都心移転方針を掲げる経済学部と異なる事情を明かした。

教授会執行部のみなさん（左から、樋口教授、斎藤教授、徳安学部長、吉村教授）

同窓会側は組織改革の考え方と到達点、今後の課題を、高橋敏会長が説明、「潜在的な会員候補を掘り起し、在校生にも及ぶネットワーク作りを進めるために、公式ウェブサイトを軸にインターネットを積極的に活用していく」と述べた。また、組織活性化のためには、教授会との連携の強化が欠かせないとし、総会への参加や「社会と人間セミナー」の開催、来年6月発行予定の会報50号記念イベントの開催などへの協力を呼びかけた。

徳安学部長からは、学部同窓会の会員の定義について具体的な提案があった。「会費を納入する現状の会員を『正会員』、社会学部の卒業生全員は『一般会員』と、二段構えの組織にしてはどうか。（学部同窓会を）周知していくうえで、最初のベースを広げることになる」というもの。SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が普及し、個人同士が気軽につながりあえる時代となった今、これを生かして「社会学部コミュニティ」を延伸、その中で同窓会組織が強化できる可能性が広がっていることを双方確認し、約1時間の懇談を終えた。

この懇談会には、同窓会側から高橋会長のほか、水上久忠事務局長、中正美事務局次長、依田素味理事、郡司貴志理事、吉川新吾会報委員長が出席した。

（吉川新吾）

校友会活動に学部の声を届ける
6人の代表議員、4人の理事で
学部同窓会協議会

14年4月に発足した校友会を中心とする卒業生組織の再編の中で、学部同窓会の存在意義を再確認し連携を強化するために、学部同窓会協議会がある。今年4月から経済学部同窓会が事務局となり、校友会対応、各種情報交換を行っている。

校友会は、今年度から代表議員選挙で当選した代議員による運営が始まるが、学部を「本籍地」とする校友会員の人数の比例配分で、法学部1人、経済学部2人、社会学部1人、経営学部1人、理系同窓会1人の計6名の代議員が学部同窓会から選出された。社会学部同窓会は副会長である中正美氏を代表議員に選任、同時に、校友会理事として学部同窓会から4人が選出された（社会学部からは高橋敏会長）。

学部棟11階に新事務所

学部棟最上階の移転先を視察する同窓会役員

社会学部同窓会は5月上旬、先生方の研究室が並ぶ社会学部棟の最上階11階の1101室に事務所を移転した。これまで事務所は図書館・研究所棟の5階にあったが、独立した部屋ではなく、研究所の合間のスペースに間借りの状態だった。このため、教授会執行部に、社会学部棟内に事務所設置の希望を伝えていたところ、田中充前学部長をはじめ教授会執行部の尽力で、移転が決まった。

社会学部同窓会主催
「社会と人間セミナー」開催のお知らせ

社会学部を卒業されたみなさんがいつでも大学に戻り、教室で勉強していただけるよう開かれた同窓会を目指して「社会と人間セミナー」を開催いたします。

今年度の講師は徳安彰先生、テーマは「原発事故と社会リスク」。◆ 9月24日（土）15時～16：30、教室は市ケ谷キャンパス外濠校舎2階S201教室（予定）。参加費：社会学部同窓会正会員は無料、以外は1000円。

申し込みは、社会学同窓会事務局まで、氏名・卒業年次・〒住所・電話番号をお知らせください。参加の方へ後日詳細を連絡いたします。

ミサワホーム株式会社
代表取締役社長　竹中 宣雄
〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
TEL.03-3345-1111（代）
1972年3月卒中野ゼミ

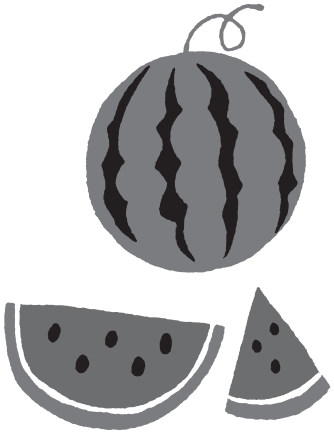
株式会社 コロンバン
代表取締役社長　小澤 俊文
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-31-19
TEL. 03-3409-2301 (代)
1975年3月卒　庄司ゼミ

法政大学社会学部同窓会
副会長　中 正美
TEL.090-8586-1242
E-mail:qqkt5de9k@mocha.ocn.ne.jp
1975 年卒

法政大学社会学部同窓会
会長　高橋 敏
TEL. 090-1802-2908
E-mail:binta2908@ezweb.ne.jp
1978年3月卒 金山行孝ゼミ

法政大学社会学部同窓会 理事
司法書士・行政書士　木村事務所
司法書士　木村 誠
〒101-0046 東京都千代田区神田多町 2-7 翔和多町ビル2階
TEL.03-3256-7058　FAX.03-3251-2205
E-mail：cau30510@pop21.odn.ne.jp
1977年3月卒　土生ゼミ

55/58　きおくプロジェクト
吉川 新吾
E-mail：shingo-y@festa.ocn.ne.jp
1987年3月卒　田中義久ゼミ



2016年度 定期総会にあたって

ホームページを核に 新たなつながりを

社会学部同窓会　会長　髙橋 敏

会員の皆様には、同窓会活動に対しご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

本同窓会は、諸先輩の長年の努力により組織活動の継続、安定が図られてきました。しかしながら、全国津々浦々で活躍する社会学部卒業生に対し、主たる活動は法政大学が立地する東京中心であったことは否めません。

幸いにも、今日の私たちは世界的な情報ネットワーク社会の中で生活しています。今後は、HP・SNSなどを活用し、組織の拡大や活動の活性化を図り、同窓会の「新たなつながり」を目指したいと思います。

昨年、社会学部同窓会はホームページをリニューアルし、活用体制を整えつつあります。今後は、図1のようにHPを核として会員、在学生、大学、校友会と連携を図り活動の充実を目指します。さらに、図2のように「会員・在学生のための同窓会」を基本理念として、これまでの活動を振り返りながら計画を立案し、活動の活性化と充実を図っていきます。

現在検討中、推進中の内容をお知らせします。

○会員の定義について

会員について、会則には「第4条　本会の会員は、法政大学社会学部卒業生、同大学院社会学専攻修了生、中央労働学園専門学校卒業生をもって構成員とする。」と表記されています。したがって、会費を納めている卒業生だけが会員ではなく、卒業生は全て「会員」です。そこで、会費を納入している会員を「正会員」、それ以外の卒業生を「会員」と改めて再定義します。これは、本年4月の教授会執行部との話し合いで、新学部長徳安彰先生よりアイデアをいただき、役員会も良案として採用することとしました。これにより、全国のすべての社会学部卒業生が「会員」となります。

○会報50号記念行事

89年（平成元年）、同窓会誕生と同時に発刊された「社会学部同窓会報」は、歴代の編集長及び諸先輩のご尽力により、来年5月には第50号が発行されます。これを祝して記念行事を計画中です。詳しくは、会報・HPでお知らせします。

○メール会員の開設

例えば図2のファミリー層などは、大学や同窓会への想いはあっても、日々の生活に追われている現状があります。そのような方々へ、スマートフォンに発信する「メール会員」制度を構築します。これにより、情報の浸透徹底を図り、活動への増員を目指します。

○事務局の移転

これまで「図書館・研究所棟」5階の一角に間借りしていた同窓会事務局を、前社会学部長田中充先生のご尽力により、社会学部棟11階1101号室に移転する運びとなりました。これにより同窓会事務局として一室が確保され、会合や作業の効率化が図られるとともに、社会学部の先生方との情報交換も密になることを期待しています。

以上、今後の計画について抜粋して報告させていただきました。総会にて討議・決定してまいりたいと思います。ご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。

図1

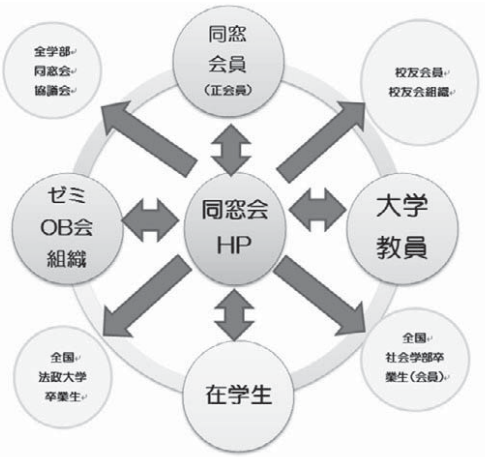
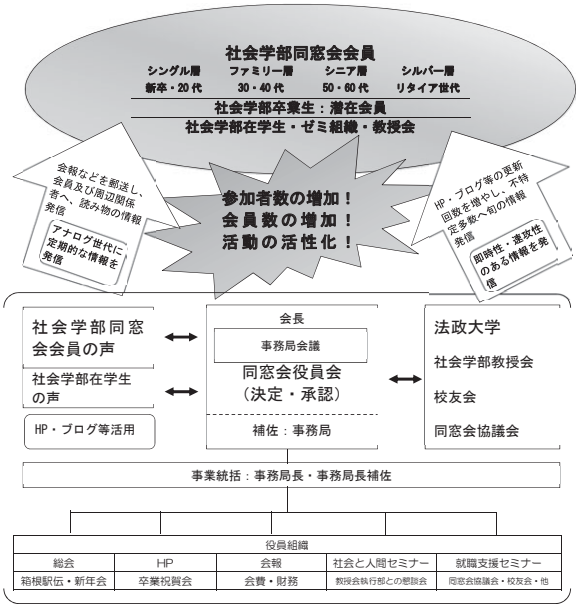


図2　社会学部同窓会活動デザイン



寄付者ご芳名

15年11月～16年4月末（敬称略）

皆様から寄せられましたご厚志を心から感謝いたします。会の貴重な運営費として活用させていただきます。

35口　伊藤陸雄
10口　藤田慎介
新村武彦
7口　福田伸夫
5口　新倉舒子
安井洸治
山岸秀雄
4口　濱中伸昭
藤永正順
3口　宇佐美貴
2口　栗原政實
宮本徹・悦子
数土清治
中村一廣
宮杉早苗江
柳澤昭吉
伊藤雅史
近藤栄一
鈴木光枝
太田昭郎
植田孝良
風見久夫
山田道生
1口　原泉
吉村征郎

【訃報】

ご遺族の方から次の会員のご逝去のご連絡がありました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

上村　埜里子（69年卒）15年8月逝去
内田　宏（66年卒）15年11月逝去
長谷川　貞子（58年卒）16年1月逝去

株式会社ティアーズは　1986年に美容室向けヘアケア専門メーカーとして発足し以来つねに時代の魁となる革新的な新製品・サービスの開発に果敢に挑戦してまいりました。TIERSとは『積み重ねた層、段階』という意味。その名のとおり、一歩一歩着実に積み重ね、より多くの人々に愛され信頼される企業を目指し、日々たゆまぬ努力を続けています。

TIERS

株式会社 ティアーズ　代表取締役　山谷　次夫（1959年卒　中島ゼミ）
〒194-0215　東京都町田市小山ヶ丘1丁目9番7　TEL042(798)5411(代)
http://www.tiers.co.jp

無煙ロースター・空調システムのパイオニア
東，産業株式会社
東は業界 No.1 商品・環境・サービスをご提供します。

取締役副社長
河村勝弘
Katsuhiro Kawamura
mobile:080-3259-4708
1963年3月卒　土生ゼミ（応用経済卒の方連絡乞う）

無煙ロースター http:// 無煙ロースター .jp　“募集” 現場管理 35 才迄

http://www.8929.co.jp　E-mail:info@8929.co.jp
〒124-0011 東京都葛飾区四つ木 3-7-12　TEL.03-3694-6392 FAX.03-3694-6720

法政大学の職員人生を振り返って思い出すままに

濵名 達　65年卒、北川隆吉ゼミ
社会学部同窓会 元事務局長

事務職員として大学を支える仕事の先頭に

初任給　2万2千円

私が大学の職員になったのは、昭和40（1965）年4月でした。初任給は、1ヶ月2万2千円、配置先は就職部渉外課、求人開拓を中心とするところでした。もとより、職員になろうと強く思っていたわけではありません。なんとなく受験し、合格してしまった、というような訳です。卒業時の総長は谷川徹三先生で、その次の総長選考が難航し、代行というかたちで小田切秀雄、渡辺佐平などと続き、文部省から、いつまでも代行ではまずい、と言われた、とか聞きました。そうした挙句、昭和43年（1968年）に法学部の中村哲先生が総長に就任し、青木宗也先生に代わるまで、長期政権となりました。

学園紛争の時代

60年代から70年代のこの時期は、全国的に「学園紛争」の時代、70年の安保改定反対のデモ、集会など、学内外は騒然としていました。ロックアウトのための柵を作ったのは、昭和44年。平成元年に取り壊すまで20年間、キャンパスの外周にありました。一方、職員となって2年後の4月初め、小金井校舎にあった計算センターに異動となりました。当時、就職部長であった、経営学部の沓水勇先生がアメリカ留学から帰って、事務の電算化が必要として、私に異動を命じた、と聞きました。しかし、結果、私はこの命令をまったく守りませんでした。そこに3年いたあと、昭和45年4月、工学部事務部の総務課・管財係に異動となり、小金井キャンパスの施設管理を昭和61年まで16年間担当しました。まだ学園紛争が盛んだった昭和45（1970）年11月、私は、工学部教授会が4名の学生を警察に告訴したのに抗議して、「教授会の知的・人間的退廃を糾弾する」というガリ版刷りの文書を出しました。それを見た文学部の小田切先生から賛意を表する葉書をいただき、その中で市ケ谷では、他に法学部の倉橋、飯田、社会学部の柘植先生が当直拒否、検問拒否をしているとのことでした。

工学部に異動になった頃

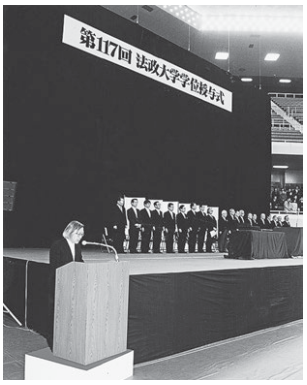
多摩移転をめぐる確執

計算センターに異動になってから19年間、小金井に通勤していましたので、市ケ谷本校の動きは良く承知していませんが、紛争がひところより静まってからは、多摩キャンパスへの移転を巡って、全学移転か部分移転か、で学部間の調整がつかない状態が続きました。結果、市ケ谷に残る学部と多摩に移転する学部に別れ、現在のような結果になりました。

この当時、多くの大学が郊外に移転したのは、昭和33年に成立した、いわゆる「工場等制限法」のために、後に平成16年頃、廃案廃止となりました。昭和62年4月に広報部に異動、市ケ谷に戻りました。雑誌「法政」、「広報」、「学内ニュース」などの学内広報を担当しました。

校舎新築工事の記録映画

そこには2年で施設部に異動、市ケ谷キャンパスの再開発などを担当、その頃、施設部の倉庫で図面を探していた時、55・58年館の建築工事の様子を記録した映画フィルムが出てきました。それぞれ8ミリと16ミリで岩波映画社の製作、ナレーションは、NHK「のど自慢」の司会で知られた宮田輝だったような気がします。また、市ケ谷再開発では、53・55・58年館を解体しなければなりません。この建築は建築学会賞とBCS賞（業界賞）を受賞した工学部の大江宏先生（故人）の設計なので、部長と二人で、53年館の解体の際に御子息の大江新先生の研究室に挨拶に行きました。先生の第一声は「父が生きていたら残念がるでしょうね」でした。2年後の平成8年4月に多摩の社会学部の事務課に異動、通勤時間は短くなったのですが、1年後には、市ケ谷の総務部に異動、広報1年、庶務1年。



卒業式で司会を務めたことも

卒業式で野次

庶務の時、武道館の卒業式で司会をしていた時、最後のほうで、正面の階段席の上のほう、突然大声で「法政大学は、君が代を歌わないのか」と野次、すかさず「校歌斉唱」と被せ、事なきを得ました。平成11年4月には、小金井に異動、1年後には再度、総務部に戻り、4年いて、平成16年3月、62歳で選択定年退職致しました。最後の4年は、清成総長時代、21世紀に向け、新学部の開設で多忙でした。このころ、職員採用の最終役員面接に同席するようになって、大学職員が金融、証券、メーカー、公務員などと並んで、学生にとって一つの人気職種になってきたのかな、と思うようになりました。

一般社団法人 法政大学校友会

終身会員募集中！（終身会費 30,000 円）　詳しくはお問い合わせ下さい。

http://www.hoseinet.jp　法政大学校友会

会　長　桑野秀光
副会長　岡田安弘
　　佐々木郁夫（広報担当）
　　井上泰一（組織担当）
　　岩村元雄（事業担当）
　　豊田信哉（総務担当）
　　小林清宣（財務担当）
　　樋口正蔵（地域担当）
　　西岡憲廣（地域担当）
　　松井幹夫（地域担当）
監事　矢部豊
　　山嵜正俊
　　發地敏彦
　　小川浩幸

事務局　〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 九段校舎 4 階
TEL 03-3264-1831　FAX 03-3264-4770　E-mail　jimukyoku@hoseinet.jp